

Ⅰ．提案の背景

○豊田市放課後児童クラブの概要

- ・クラブ数：66クラブ（75小学校区）
- ・運営形態：公設公営 … 2クラブ } **全て小学校の敷地内で実施**
- 公設民営（運営委託） … 64クラブ }
- 民設民営 … 1クラブ }

年度	小学校区	クラブ数	通常学期中（5月） 登録児童数	夏休み中（8月） 登録児童数
26年度	75	60	2,642人	4,023人
27年度	75	61	2,852人	4,341人
28年度	75	64	3,204人	4,659人
29年度	75	66	3,460人	5,326人
30年度	75	66	3,528人	5,878人

※公設クラブのみの数値

- ◆増え続ける利用ニーズに対応するため、学校施設を活用し、年々規模を拡大している。
- ◆拡大に伴い、放課後児童支援員の確保に苦慮している。

1. 提案の背景

○豊田市放課後児童クラブの支援員・補助員体制

必要なポスト数（5月）	支援員 （研修受講者）	補助員 （研修未受講者）
334人	207人 ※内常勤職員36人	387人 ※全て非常勤職員

※公設クラブのみの数値

- ◆常勤の職員はわすかであり、ほとんどが非常勤の職員である。
- ◆非常勤職員の一般的な勤務日数は週3日程度。

Ⅰ．提案の背景

- 保育士等の資格を有しておらず、実務経験により放課後児童支援員となる者について
- ◆支援員認定資格研修を受講するためには、高等学校卒業以上の者で2年以上、それ以外の者では5年以上の実務経験が必要。
- ◆2年以上の実務経験とは、2年以上従事かつ総勤務時間が2,000時間程度あることが一定の目安とされている。

II. 具体的な支障事例

○豊田市の放課後児童クラブで勤務する補助員の一般的な年間勤務時間数

3. 5時間（1日の勤務時間）×3日（1週間の勤務日数）×50週間

= **525時間（1年間の勤務時間）**

- ◆ 2,000時間程度の勤務を行うには4年程度かかり、2年以上とする条件との乖離が大きい。
- ◆ 資格の取得に時間がかかり、支援員不足が懸念される。
- ◆ 資格取得を目指して勤務している補助員のモチベーション低下につながる。
- ◆ 週3日程度の勤務であっても、2年間実務を行うことで必要とされる知識や能力を習得できている。

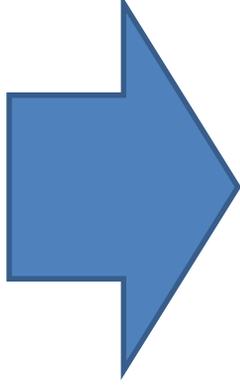
II. 具体的な支障事例

○運営事業者、現場職員の声

- ◆ 2年間の勤務を通じて、十分な経験を積んでおり、支援員としての業務を任せられるので、資格を取得させたい。
- ◆ 2年後には支援員として勤務してもらえらる予定で人員を配置していたので、クラブの運営を継続するのに支障がある。
- ◆ 支援員になることを目指して2年間勤務してきたのに、あと2年必要と言われると、続ける自信がない。

Ⅲ. 提案内容と効果

支援員認定資格研修を受講するために必要な実務経験の基準について、地域の実情に即して、自治体の裁量で必要な総勤務時間数を判断できるように明確化する。



支援員資格の取得が促進され、支援員不足の解消につながる。